

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学歯学総合研究科
衛生学・健康増進医学
TEL (099) 275-5289
FAX (099) 265-8434

発行責任者：地方会長 堀内正久

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

第100回大会に向けて

産業医科大学産業生態科学研究所産業精神保健学 江口 尚



会員の皆様、今期から、日本産業衛生学会九州地方会理事及び産衛九州編集副責任者を拝命いたしました。何卒よろしく願いいたします。

さて、九州地方会は令和9年(2027年)に日本産業衛生学会第100回大会を担当することになっています。日本産業衛生学会の設

立自体は1929年ですので、第100回大会は学会設立100周年よりも2年早く迎えることになります。これから、地方会理事を中心に、大会事務局、企画運営委員会等の組織を立ち上げたくうえで、開催地や開催テーマ等について今後詰めていくことになるかと思えます。

第1回大会が開催された1920年代の日本社会は、第1次世界大戦による大戦景気による反動からの不況期でした。一方で、社会的には大正デモクラシーと重なり、男女平等や普通選挙運動など社会の民主化進んだ時期でもありました。さらに、そういった時代背景もあり、1916年に施行された工場法が1923年に改正され、法の適用範囲が「常時10人以上」の職工を使用する工場に拡大されたり、保護職工の年齢が16歳に引き上げられたり、産前産後若しくは生児保育中の女性に対する就業制限の規定が設けられるなどしたようです。個別の出来事としては、関東大震災(1923年)、普通選挙法・治安維持法制定(1925年)、昭和金融恐慌(1927年)など、がありました。

一方、「今」に目を向けますと、この3年間は新型コロナウイルス感染症のパンデミックから、リモートワークの急速な広がりや働き方の多様化、ギグワーカーの増加など働く環境は大きな(10年単位で起こる変化がわずか数年で生じた)影響を受けました。その影響は、ポジティブ、ネガティブ、様々な影響を労働者に及ぼしています。また、就労する女性、病気や障害のある労働者、外国人労働者、

高年齢労働者の増加や、性的少数者の権利への関心の高まりなど、労働者の多様化が急速に進んでいます。さらに、半導体の機能向上によってもたらされたChatGPT等に代表される生成AIなどのテクノロジーの技術革新も我々の想像を超えて進んでおり、労働者には、学び直し(リスキリング)が求められています。そういった時代の変化に応じるべく、産業保健のあり方に関する検討会も開催されています。労働者保護に関する学会内での議論でも「誰も取り残されない」という言葉も良く耳にします。

私の好きな言葉に、「トム・ソーヤーの冒険」で知られる米作家マーク・トウェインの言葉とされる「歴史は繰り返さないが、韻を踏む」という言葉があります。第1回大会当時と第100回大会今を比較すると、「韻」を踏んでいるところ、まったく違うところ、それぞれの立場、見方で異なってくると思いますが、私は比較することそのものに意味があると思っています。100回は節目の大会であり、どうしても「歴史」に関心が向きます。多様化や技術革新が急速に進み、先の見通しが立ちにくくなる一方で、少子高齢化がもたらす社会的な閉塞感が大きいわが国において、何かしらの方向性と希望となるような「韻」が示せる大会にできればと一地方会理事として「夢想」しています。

地方会理事として、第100回大会に向けて尽力してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



会員交流

学校薬剤師と産業薬剤師

有村 洋一

(シルキー薬局(鹿児島市))



私は薬剤師として保険薬局で20年以上働き、この数年間、今まで全く知らなかった「産業保健」の活動を学ぶ機会を得ています。全く知らなかった「産業保健」ではあったのですが、以下に記載した「学校薬剤師」の活動は、「産業保健」に近い部分があると感じています。

学校薬剤師の業務は、学校保健に携わり、「学校環境衛生」の維持管理・指導を行い生徒・職員の快適な教育環境を整えることや、くすり教育・薬物乱用教育を行い発達段階における心身の健康管理の指導助言などです。「学校環境衛生」については、事務所則に準じている部分も多く、「作業環境測定」として学校薬剤師が粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素、気流、騒音を測定し、VOCに関してはパッシブ法によりホルムアルデヒド以外にもトルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレンを測定していきます。その他、水道水やプール水の水質検査、照度検査も行います。近年、ICT化が急速に進み、タブレット使用や電子黒板での授業が多くなっています。情報機器作業と同様にグレアや姿勢等の指導も行います。昨今増加している熱中症の対策として、WBGTに基づく指導もおこないます。

「学校」を1つの職場と考えると、学校薬剤師としての経験は、産業保健に応用することができる要素を多く含んでいると思います。現在、産業保健の領域で活動する「産業薬剤師」を目指し、化学物質管理に関わる作業環境測定士や衛生工学衛生管理者資格を取得しました。ただ、一般的な薬剤師においても、学校薬剤師の経験を持つ方は多く、産業保健の一部をすでに体得しているとも言えます。また、学校医と連携し、子どもたちや職員の健康を守る活動は、産業医と連携し、健診支援や両立支援の場面に活かされるとも考えています。

学校薬剤師の経験を基盤に、より複雑な職場の環境や健康問題に関わることを目指して、保険薬局薬剤師による「産業薬剤師」というフロンティアを多くの薬剤師やそれを支援する皆様とともに、その歩みを着実に進めていきたいと願っております。

部会報告

医部会

小田原 努

(公社)鹿児島県労働基準協会 ヘルスサポートセンター(鹿児島)



九州産業医部会では、来年1月20日に博多駅近くの会場で令和5年度の研修会を予定しています。医師や陸上貨物運送業、建設業等の2024年度の働き方改革に向けて、いろいろと準備が進んでおり、物流に与える影響や、万博のパビリオンの建設等にどの程度の影響があるのか、大きな関心が寄せられて

ています。産業保健の分野でも関心の高いところですが、今回は、独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所の吉川 徹先生をお招きして、現在の進捗状況や働き方改革の産業保健に与える影響等、御講演をいただく予定です。吉川先生は、過労死等防止調査研究センターのセンター長代理であり、長時間労働の研究の第一人者であるところは周知のところでありますが、特に陸上貨物運送業は中小企業が多く、この働き方改革に向けて、どのような対応が可能なのかお話を聞きたいところです。

一般には、長時間労働が是正されると、従業員の健康にはポジティブな影響が与えられると考えられますが、安い賃金を長時間労働によって補ってきた面もあり、就労意欲の低下を招くのではないかと危惧されています。また労働時間を削減するために、仕事の自動化等効率化が図られ、給料は減るのに、仕事密度は高まる可能性も指摘されています。たださえ、厳しい労働環境の運送業や建設業ですので、如何に業務に定着してもらえるのか経営者も苦慮されているのではないかと思います。

吉川先生には、いろいろな会社の取り組みや、対応の事例も含めて、お話を聞けるものと思っています。日本産業衛生学会九州地方会看護部会、産業医学推進研究会九州地方会と共催し、開催する予定ですので、ぜひご参加よろしくお願いたします。

看護部会

日笠理恵

(福岡県市町村職員共済組合)

去る6月18日(日)に博多駅最寄りの福岡会場で2023年度産業保健看護専門家制度(以下、専門家制度という。)の登録者認定試験が行われました。福岡会場では11名が受験され、7月末現在、受験者に結果が通知されているようです。合格者は専門家の取得に向けて取り組まれて行かれる

ことと思います。

九州地方会産業保健看護部会では年に 2 回の研修会を実施しております。令和 5 年度は、まず本誌が発行される頃、9 月 2 日(土)に専門家制度の継続教育研修を開催します。研修は、産業保健活動に求められる知識や技術に焦点を当て時機を得たテーマで企画するようにはしておりますが、今回は基本に立ち戻り久しぶりに「保健指導」を取り上げました。そのご報告は次号お届けします。もう 1 つは、12 月か 1 月の土曜日に「化学物質自律管理」をテーマとした産業保健看護研究会です。こちらは保健看護職にかぎらず地方会員が参加いただけるものです。詳細が決まりましたらご案内いたします。

さて、これらの研修ですがコロナ禍でオンライン研修が浸透しました。遠方の研修への参加が難しい九州地方会会員にとって参加が容易になった一方で、現地参集のハードルが高くなった印象です。日頃から仲間と顔を合わせる機会が激減して、最近産業保健分野に入られた方、特に一人職場の方にとっては仲間がどこにいるのかわからないということがあるのではないのでしょうか。

オンライン研修でも少人数で意見交換する試みも重ねていますが、やはり視覚情報と聴覚情報が限られますし、何より「熱量」が伝わっていないのではと危惧しております。そこで当部会では昨年末から現地参集を再開しました。

私事ですが、本年 5 月に 3 年ぶりに学会総会(宇都宮市)に現地参加いたしました。久しぶりの関東への出張と学会総会の過ごし方に正直戸惑いもありましたが、オンラインでは味わえない空気感を満喫し、何より懐かしい先生方や仲間との再会代えがたい多くの力をいただきました。

当部会のミッションに「教育・研修」と「部会員の拡大・ネットワークの強化」がありますが、超高齢社会に向かい目まぐるしく変わる産業保健を取り巻く状況に対応するた

めにも、専門家制度に則った研鑽を積むことはもちろん、どのようにネットワークを強化していくかが 1 つの課題です。九州地方会における活動の在り方についてもみなさまから広く意見を得たいと模索しております。

つきましては、当部会の研修会はもちろん、九州地方会学会へも足を運んでいただき、会員(仲間)の「熱量」を肌で感じて、当部会の活動へのご意見を届けていただきたと考えておりますので、11 月 11 日に産業医科大学で開催される令和 5 年度九州地方会学会へご参加ください。

最後に、先の宇都宮での学会でお披露目された「必携産業保健看護学—基礎から応用・実践まで—」をご紹介します。本部会編集の産業保健看護職向けのテキストで、公衆衛生看護を学ぶ初学者や初任期の産業保健看護職が、実践者としてのスタートに活かすことができるテキストです。また、すでに活動中の産業保健看護職が最新の知見等を学ぶことが出来るテキストとなっており、購入者には演習や実習に役立つ、実践的なコンテンツの付録がついています。宇都宮の現地でも多くの方が買い求められておりました。ぜひお手に取ってご覧ください。

技術部会

宮内博幸

(産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座)

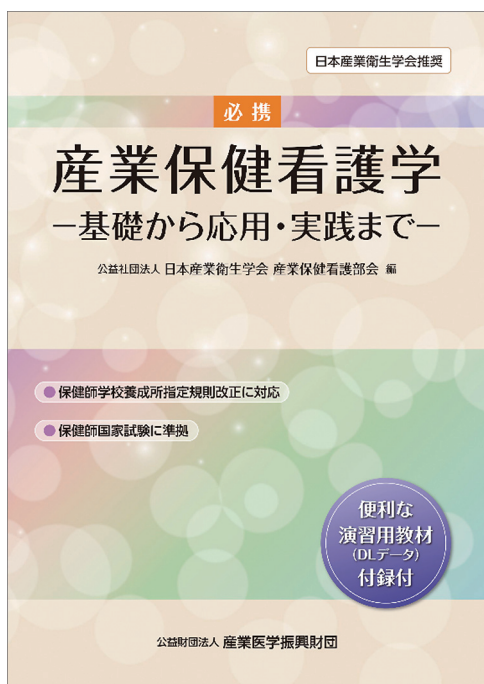


2023 年の第 96 回日本産業衛生学会(宇都宮)において、シンポジウム 11 として、「組織内外の産業衛生技術専門家の「自律的な化学物質管理」—オキュペイショナルハイジニストから見た実務/指導/助言・課題・展望」が 5 月 11 日に実施されました。津田洋子氏(帝京大学)と土肥誠太郎氏(株

MOANA 土肥産業医事務所)の司会のもと、森分勝人氏(ENEOS)による「製造業内部担当者としての産業衛生技術専門家の実務と展望」、片山謙吾氏(熊本大学)による「学校の内部担当者としての実務と展望」、奥田篤史氏(株富士清空工業所)による「外部専門家としての実務と展望」と題した講演が行われました。また、参加者からも活発な発言がなされ、今後の化学物質管理が自律的な方法に変わる中、特に現場にて化学物質管理を司る産業衛生技術専門家の方々の視点より今後必要な能力は何か、どうあるべきかという提言を賜りました。

5 月 12 日(金)には、「これからの騒音障害予防対策について」と題し、騒音障害防止研究会との共催により産業衛生技術部会フォーラムが実施されました。

齊藤宏之氏(労働安全衛生総合研究所)による司会のもと 5 名の専門家からの提言がなされました。井上仁郎氏(井上音響リサーチ)より「騒音障害防止ガイドライン改



正：30年ぶりの改正、改正の目的や概要の解説」について、続いて佐々木直子氏（佐々木労働衛生コンサルタント事務所）による「国内の騒音曝露の実態紹介」、永野千景氏（産業医科大学）による「旧ガイドラインに基づく騒音対策の実施状況」、森岡郁晴氏（和歌山県立医科大学）氏からは「化学物質による不可逆性難聴」、中原浩彦（NAOSHコンサルティング）氏よりは「今後の騒音障害防止管理について」についての講演が実施されました。新しい騒音管理が推進される中、特に人のばく露レベルを指標として対策を立てることの重要性が提言されました。また、測定後の改善についても、現場を中心とした包括的に対策を考えることが重要であり、規制のみについての対応でなく、全体としてのマネジメントを進めることが必要であるとの発言を頂きました。今後の騒音による健康障害防止の活動においてきわめて重要にガイドラインであり、また、騒音対策のみならず、快適な作業場形成の活動としても今後ますます重要であること、目的を明確にして自主的に推進することの重要性が示唆された研修会でした。参加者にとって、大変有益な研修会でありました。

歯科保健部会

谷口奈央
(福岡歯科大学)



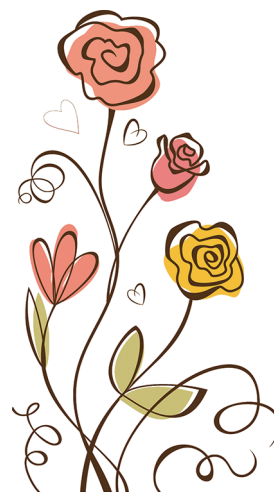
「国民皆歯科健診」の具体的な検討に向け、令和5年度の厚生省モデル事業として職域向けの簡易的な歯科検査等が実施されることが、日本歯科新聞の一面を飾りました（6月27日）。職域における法定の歯科健診は特殊健康診断のみで、多くの勤労者世代が歯科健診の機会がないことが課題の一つとなっています。

産業歯科保健部会でも、さまざまな取組の拡充がすすんでいます。第96回日本産業衛生学会（宇都宮市）の教育講演「意外に知られていない、歯科疾患の職域での大きな負担をデータから見る」では、相田潤氏（東京医科歯科大学）から、歯科疾患の国民医療費が勤労者世代で高額であることが紹介され、産業歯科保健に関する取組の意義についての話題が提供されました。産業歯科保健部会フォーラムでは「働く人々の多様化への対応」として、外国人技能実習生・労働者、非正規雇用労働者、障害者など、多様化する労働者への歯科保健サービス提供のあり方について議論されました。また、第72回日本口腔衛生学会学術大会（大阪市）では、産業歯科保健部会が主催するシンポジウム「今がチャンス 産業保健での歯科保健の新たな展開－歯科が期待される役割－」が行われ、歯科関係者の産業保健への関心の高まりが窺えました。

産業歯科保健部会第1回幹事会の報告としましては、10

年にわたり部会長を務められた加藤元氏（IBM）から新部会長の安田恵理子氏（大阪歯科大学）に引き継がれ、新体制となりました。九州産業歯科保健部会からは、産業衛生学雑誌や九州地方会学会での成果発表、九州・福岡健康経営推進協議会と共催で行なったセミナー開催などの2022年度の活動と、2023年度の九地連研究助成金獲得（『九州拠点企業ならびに酸を取扱う中小工場における歯科保健活動の実態・意識調査』）、2024年度の日本産業衛生学会九州地方会開催を担当すること等が報告されました。九州以外から、歯科特殊健康診断の充実、多職種連携、歯科健診受診と生活習慣病との関連、生活歯援プログラムの展開、コロナ禍におけるオンライン歯科保健指導の試み、フレイル・オーラルフレイル予防、壮年期女性における口腔機能とロコモティブシンドローム等、口腔と職場とを結びつける新たな展開に関するさまざまな話題がありました。

今後の活動としましては、9月3日（日）に開催される九州口腔衛生学会（大分市）におきまして、九州の歯科関係者に産業保健を知ってもらうために、主催の大分県歯科医師会と協力し、産業歯科保健の視点で基調講演を企画いたしました。詳細につきましては、次号でお知らせいたします。産業保健活動における歯科の役割について興味を持つ歯科関係者（会員）が増えることを期待しています。



研修会・学会の報告と予告

令和 5 年度九州地方会学会のご案内 (第 3 報)

大 神 明

(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学)

日本産業衛生学会九州地方会学会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和 5 年度の地方会学会を下記の通り開催ですので、ご案内申し上げます。

さて、久しぶりの北九州市での開催となります。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

記

令和 5 年度九州地方会学会

会 期：令和 5 年 11 月 11 日(土)

会 場：産業医科大学 ラマツイーニホール
(北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1)

学会長：大神 明 (産業医科大学 産業生態科学研究所
作業関連疾患予防学 教授)

参加費：3000円 (会員)、4000円 (非会員)

懇親会：開催予定無し

一般演題募集：令和 5 年 8 月 2 日～

演題締め切り 9 月 20 日

演題プログラム発送を 10 月に予定しています。

【プログラム】 (案)

- 9：00～ 受付開始
- 9：30～ 開会
- 9：40～ 理事長挨拶
- 9：50～11：10 一般口演 (4～5 題)
- 11：10～12：00 昼休憩 (医部会幹事会・各部会等)
- 12：00～12：40 交流ティータイム
- 12：40～14：00 一般口演 (4～5 題)
- 14：00～14：10 休憩
- 14：10～15：30 教育講演 (各 40 分)

1 「化学物質の自律的管理：新たな規制が照らし出す
化学物質管理の現状と課題」

上野 晋

(産業医科大学 産業生態科学研究所 所長)

2 「産業保健分野における AI 革命：労働者の健康と
生産性を向上させる IoT の活用について」

筒井 保博

(福岡産業保健総合支援センター 所長)

15：30～15：40 休憩

15：40～15：20 特別講演

「聴く話術～その目線の高さで伝える言葉」

大神いずみ (元日本テレビアナウンサー)

16：20～ 地方会総会

事務局：産業医科大学 産業生態科学研究所

作業関連疾患予防学

〒8807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

電話 093-691-7471

令和 6 年度九州地方会学会のご案内 (第 1 報)

谷 口 奈 央

(福岡歯科大学 口腔保健学講座 口腔健康科学分野)

日本産業衛生学会九州地方会学会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、令和 6 年度の地方会学会を下記の通り開催させていただきますことになりましたので、ご案内申し上げます。

歯科保健部会が初めて準備を担当させていただきますため、不慣れな部分も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、お力添えいただけますようお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月 27 日に地下鉄七隈線 (博多駅～天神南駅) が延伸開業し、学会会場となります。本学へは博多駅から直接アクセスしていただけます。

教育講演、特別講演などの内容につきましては、現在鋭意準備を進めているところでございます。

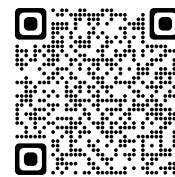
みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

記

令和 6 年度九州地方会学会

会 期：令和 6 年秋

会 場：福岡歯科大学 50 周年記念講堂



学会長：谷口 奈央 (福岡歯科大学 口腔保健学講座
口腔健康科学分野 教授)

事務局：福岡歯科大学 口腔保健学講座

口腔健康科学分野

〒814-0193 福岡市早良区田村 2-15-1

電話 092-801-0616

理事会報告

編集後記

2023年度
第1回九州地方会理事会

第1回理事会が、2023年8月11日(金)10:00 - Webで開催されました。

議題:

- 1) 2022年度第2回理事会議事録要旨について
- 2) 2022年度事業・決算報告について
- 3) 2023年度事業計画・予算案・会員数について
- 4) 日本産業衛生学会学術総会(第100回)の体制について
企画運営委員会委員長として、堀江正知先生(産業医科大学)が担当することとなった。
- 5) 2025年度地方会学会の開催地について
中村幸志先生(琉球大学)が担当されることとなった。
- 6) その他:

- 報告事項: 1) 日本産業衛生学会本部関係
- 2) 2023年度「研究会等」開催について
 - 3) 2023年度地方会学会準備状況
 - 4) 2024年度地方会学会準備状況
 - 5) 産衛九州の編集状況
 - 6) その他

今年の梅雨では、九州でも大きな被害が出ました。それに続く猛暑もあり、個人ではどうすることもできないと思われる社会的な問題になっています。異常気象の中、働き方にも影響が生じると考えられます。今号の巻頭言では、江口先生(新理事)から、日本産業衛生学会100回大会に関する内容が寄稿されました。100回行われてきた歴史を感じながら、これからの新しい産業保健について、異常気象をはじめとする社会的な問題も踏まえながらの九州からの情報発信が期待されるところです。今号では、一般からの寄稿が少なく、部会の活動報告が主な内容になっています。あらためて、地方会活動の基盤は、各部会に負うところが大きいと感じています。この11月には、大神先生の主宰で地方会学会が開催されます。ティータイムでの交流時間の設定など、現地開催ならではの交流が図れる内容のご報告を読んで感じています。(堀内)



九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 2023年9月1日

- 編集正責任者: 堀内 正久 (鹿児島大学)
- 編集副責任者: 江口 尚 (産業医科大学)
- 編集委員: 青柳 潔 (長崎大学)
- 彌富美奈子 (株式会社SUMCO)
- 大神 明 (産業医科大学)
- 加藤 貴彦 (熊本大学)
- 小田原 努 (ヘルスサポート鹿児島)
- 黒田 嘉紀 (宮崎大学)
- 斉藤 功 (大分大学)
- 住徳 松子 (アサヒグループ株)
- 中村 幸志 (琉球大学)
- 藤野 善久 (産業医科大学)
- 森 晃爾 (産業医科大学)

(編集事務局連絡先)

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
 鹿児島大学歯学総合研究科
 衛生学・健康増進医学
 TEL(099)275-5289 FAX(099)265-8434
 E-mail: masakun@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp